

秋田高校 同窓会だより Vol.119



AKITA HIGH SCHOOL alumni association news



- あの頃の思い出 **最強の仲間と最高の演奏を** 佐藤 正人氏
エッセイ **村を守る不思議な神様に魅せられて** 小松 和彦氏
交差点 **秋田の役に立ちたい** 鯨岡 修氏
ズームアップ **字幕翻訳者として、秋田から世界とつながる日々** 品川 愛子氏
遊びが秋田の未来を創る 佐々木 隆氏

6月21日に同窓会総会

266人の新しいチカラが加わる

令和8年2月28日、卒業生266人を新たに迎える入会式が行われた。

冒頭のあいさつで、柴田義弘参与（昭和41年卒、元校長）から在校生として3年、通算20年の教諭生活、校長として2年、合計25年うぐいす坂を往復した思い出話、そして「卒業しばらくは「秋高」のバックボーンがない所で切磋琢磨し、10年後くらいは落ちてきたところ「あいつはどうしてる?」「同期に会ってみたい」というような気持ちが出てくるでしょう。そこで母校とのつながりの橋渡しや支援をするのが同窓会です。これからの活躍を心より祈念しております。」という言葉が送られた。

続いて横手市で弁護士として活躍している近江直人さん（昭和60年卒）から激励の言葉が送られた。自身41年前卒業し、在学中に心に残った言葉は「おのれを修めて世のためにつくす」。学び続け、必要とされる場所で責任を引き受けると解釈している。在学中は吹奏楽部に入り、毎日トロンボーンを吹いていた。「音は誠実でなければ響かない、ごまかしはダメです。仲間との共鳴により音が一致した時素晴らしいものとなって伝わる」。

やるなら難しいことに挑戦してみようと考え司法の道を選択した。当時の試験の合格率は2・7%、100人受けて97人が落ちる現実、バイトしながら勉強し4年後合格できた。挫折しなかったこともあったが最後まであきらめなかった。支えてくれた両親には感謝。そして司法修習が終わり横手で開業しようとした。地縁のない土地、不安だったが「おのれを修めて」の言葉を思い出し決心した。現在同地域には4事務所、5人の弁護士がおり様変わりした。思い出深いエピソードとして、2時間かけて訪ねてきてくれた女性の依頼人が「弁護士に会えただけでホッとした」と言ってくれたこと。この地域に在る意味を実感した。

柴田義弘参与

開業は平成7年、インターネット黎明期で、使用していたOSはウィンドウズ95であった。消費者被害の救済案件に

取り組み全国規模で活動を展開しました。

「未来は無数にあります。皆さん、どの場所で誰のためにチカラをつかいたい? 都会、海外、秋田? どこでもいいです。大切なのは逃げずに続けること。続けられる人にだけ景色も変わっていきます。秋高同窓会は『同じ高校を卒業』ということでは結ばれています。その絆は強固で、会って同窓とわかれば『私も秋高』という言葉が発せられます。お互いに伝統と校風を共有しているからです。至るところに最前線で活躍している卒業生たちがおります。どうかこのつながりを大切にしてください。質実に自律的に不屈に。皆さんの未来が光り輝くように心からお祈りしております。」

この後、柴田参与から新入会員代表の熊谷彩夏さん（前生徒会副会長）に記念品が贈呈された。熊谷さんから「伝統を引き継ぐという大きな責任を感じております。150周年の節目に入学、この歴史は先輩方の努力や苦労の上に成り立っております。特に着装の自由化については、自主自律の高い志と行動力の偉大さを感じました。この3年は将来大きな糧となることでしょう。この伝統を先輩たちにも引き継いでいかなければならないと思っております。これからも指導・鞭撻のほどよろしく願います。最後に応援団OB会「紫紺の会」のリードで校友会歌を斉唱し式は終了した。



校友会歌斉唱



同窓生代表
近江直人さん



新会員代表
熊谷彩夏さん

天上天下 TENJO TENGE

文武両道、自主自律が秋高の校訓であり、多くの卒業生がその校風を体現している。同窓生に会うと、不思議とどこか似た気風が感じられることが少なくない。同じ校訓の下に学び、薫陶を受けたからと言えば言い過ぎだが、校訓や校風の影響が毎年12月に開催されている全国高校柔道大会という公式大会を知り、そのユニークな開催趣旨が目をついた。出場校は全国的に知られた進学校が名を連ね、文武両道の本気度を競い合うかのような感さ、漂う。ただ、過去の大会に秋高は見当たらなかった▼スポーツの全国大会をみると、実力差が歴然とす。試合が気になることがあるだけに、文武両道杯は実に興味深い。もちろん、文武両道を掲げる高校が、いわゆるスポーツ強豪校に果敢に挑むこと自体、醍醐味があって、極めて魅力的であることは言うまでもない▼文武両道があまりにも強調されると、女子生徒が半数近いうえに、サイエンス分野にも強い今日の秋高の実像とは、やや懸け離れてしまいうさである。しかしそんな時には、文武両道と双壁をなす自主自律の校訓を前面に打ち出せる▼時代がどれだけ移り変わっても、男女を問わず、秋高の校訓が在校生、同窓生一人一人に貫かれていくことを望まざるにはいられない。

大学合格状況一覧

令和8年3月31日現在

今春の
進路状況

東大11人

東北大23人

医学部医学科28人合格

この3月の卒業生及び過卒生の進路状況についてお伝えします。卒業生は、専門学校進学の名をのぞいて全員が大学への進学を希望しました。国公立管外大の合格者は174人(昨年比-4)でした。

大学別では、東京大学は現役が8人(+3)、過年度卒が3人(±0)で合計11人(+3)となり、東北地区では最も多い合格者を出すことができ、特筆すべきは、昨年度合格者が1人だった文科類で、5人(すべて現役)の合格者が出たことです。また、昨年合格者が出なかった京都大学で3人の合格が出ました(現役2、過卒1)。

を合わせて、一橋大6人(+4)、東京科学大3人(±0)、国際教養大7人(+2)と健闘しましたが、東京勢の流入により非常に難化した東北大学で苦戦し、合格者が23人(-13)となりました。

医学部医学科には現役と過卒を合わせて延べ28人(-15)が合格しました。今年度は現役生で複数の大学に合格した生徒がいなかったことと、医学部志望の過卒生が少なかったため、延べ数が大幅に減っています。国公立管外大学は22人(-8)で、秋田大学20人(-6)、東北大学1人(-1)でした。私立大学医学科では、防衛医科大学校や東北医薬大などに合格者が出ております。

私立大学は現役と過卒を合わせて延べ264人(+68)が合格しました。最も合格者が多かったのは明治大学で22人(+10)。例年希望者の多い早稲田大学は16人(+7)、慶應義塾大学は7人(+2)でした。

今年度は共通テストの平均点が大きく下がり、受験生にとって精神的に厳しい入試でしたが、生徒たちは皆、第一志望達成を信じて諦めず努力を続けてくれました。同窓会の皆様におかれましては、いつも心強い御支援をいただき、誠にありがとうございます。今後とも秋高生の進路実現や進路意識高揚に、どうか御協力のほどよろしくお願いいたします。(進路指導部)

国公立管外大				国公立大学と文科省管轄外の大学校			
大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
小樽商科大	1	0	1	金沢大	0	1	1
北海道大	5	0	5	信州大	2	0	2
弘前大	2	2	4	静岡大	1	0	1
岩手大	4	2	6	名古屋大	0	1	1
東北大	19	4	23	京都大	2	1	3
宮城教育大	2	0	2	大阪大	1	0	1
秋田大	43	5	48	神戸大	1	0	1
福島大	4	0	4	九州大	0	1	1
茨城大	1	0	1	琉球大	1	0	1
筑波大	4	0	4	秋田県立大	1	0	1
宇都宮大	4	0	4	国際教養大	7	0	7
埼玉大	5	1	6	東北公益科大	1	0	1
千葉大	6	0	6	会津大	1	0	1
電気通信大	3	1	4	高崎経大	1	0	1
東京大	8	3	11	東京都立大	1	1	2
東京外国語大	3	0	3	横浜市立大	1	0	1
東京学芸大	3	0	3	新潟県立大	0	1	1
東京科学大	3	0	3	岐阜県立大	0	1	1
東京農工大	2	0	2	大阪公立大	1	0	1
一橋大	6	0	6	気象大	1	0	1
横浜国立大	3	0	3	職能開発大	1	0	1
長岡技術科学大	0	1	1	防衛医科大	0	1	1
新潟大	17	2	19	国公立管外大計	174	30	204
富山大	2	1	3				

医学部医学科			
大学名	現役	過卒	計
弘前大	0	1	1
東北大	0	1	1
秋田大	16	4	20
東北医薬大	0	1	1
埼玉医大	0	1	1
昭和医大	0	1	1
帝京大	0	1	1
東京医大	0	1	1
防衛医科大	0	1	1
医学部医学科計	16	12	28

私立大			
大学名	現役	過卒	計
北海道大	1	0	1
北海道科学大	1	0	1
八戸工大	1	0	1
岩手医大	3	1	4
石巻専修大	1	0	1
仙台大	1	0	1
東北学院大	2	7	9
東北福祉大	1	0	1
東北医薬大	2	1	3
仙台白百合大	1	0	1
日赤東北看護大	1	0	1
奥羽大	0	1	1
白鷗大	0	1	1
埼玉医科大	0	1	1
獨協大	4	0	4
文教大	1	0	1
神田外語大	1	0	1
淑徳大	2	0	2
千葉工大	2	12	14
青山学院大	10	1	11
学習院大	4	0	4
北里大	1	0	1
杏林大	1	0	1
慶応大	7	0	7
国際基督教大	2	0	2
駒澤大	1	0	1
芝浦工大	11	0	11
順天堂大	1	3	4
上智大	9	2	11
昭和医大	0	4	4
成蹊大	4	1	5
名城大	1	0	1
専修大	3	0	3
大東文化大	1	0	1
玉川大	1	0	1
中央大	7	5	12
帝京大	0	4	4
東海大	2	1	3
東京医大	0	1	1
東京音大	1	0	1
東京工科大	1	0	1
東京農大	4	0	4
東京薬大	0	1	1
東京理大	2	3	5
桐朋学園大	1	0	1
東洋大	5	0	5
日本大	4	3	7
日赤看護大	1	0	1
法政大	13	3	16
星薬科大	0	1	1
武蔵大	2	1	3
武蔵野大	4	0	4
明治大	16	6	22
明治学院大	2	0	2
明治薬大	2	0	2
明星大	2	0	2
立教大	7	2	9
早稲田大	15	1	16
麻布大	2	0	2
神奈川大	0	3	3
産業能率大	2	0	2
鶴見大	0	1	1
新潟医療福祉大	1	0	1
愛知工業大	1	0	1
同志社大	3	2	5
立命館大	1	4	5
龍谷大	1	0	1
近畿大	2	0	2
関西学院大	1	0	1
私立大学計	187	77	264

※合格はすべて延べ数です

令和8年度教職員人事異動

【退職】	
教諭	三浦直彦
非常勤講師	富樫良恵
非常勤技師	中村正光
非常勤職員	藤井弘子
【昇任・転出】 転出先	
副校長	牛丸靖浩 本荘高校校長
教諭	伊東光喜 新屋高校
教諭	角崎綾子 総合教育センター
教諭	伊藤健一 西仙北高校
教諭	藤原淳 保健体育課
臨時講師	佐賀薫 御所野学院高校

臨時講師	工藤剛 新屋高校
臨時講師	三浦拓真 秋田明德館高校
臨時講師	村上柁 桂城小学校
【昇任・転入】 転入元	
副校長	伊藤匡 秋田高校教頭
教頭	小玉慎也 能代支援学校
教育専門監	近江美歩 秋田きらり支援学校
教育専門監	石垣裕介 秋田高校教諭
教諭	工藤正隆 秋田北高校
教諭	石垣成章 御所野学院高校 (秋田大学大学院派遣)
教諭	中村東 金足農業高校

教諭	浅野朋央 高校教育課
教諭	沓澤信宏 横手高校
教諭	山内孝太 角館高校
臨時講師	武田裕子 仁賀保高校
臨時講師	岩田朗子 秋田西高校
臨時講師	仙花菜実 五城目高校
非常勤技師	山本慶輔 新任用
事務補助	石川智美 新任用

村を守る不思議な神様に魅せられて

小松 和彦 (平成7年卒)

こまつ・かずひこ／1976年、秋田市生まれ。青山学院大学文学部史学科卒。小松クラフトスペース店主。花柳界や民間信仰を中心に秋田県の郷土史を研究している。共著に『秋田県の遊廓跡を歩く』（カストリ出版）、『村を守る不思議な神様・永久保存版』（KADOKAWA）など。秋田魁新報電子版で『新あきたよもやま』連載中。



私が運営する工芸ギャラリー「小松クラフトスペース」（秋田市中通）は、戦後まもなく祖父母が「小松呉服店」として創業したのが始まりである。私はその三代目にあたるが、10代の頃は家業を継ぐ気など全くなく、高校卒業後は考古学者になる夢を抱いて上京した。

転機となったのは、大学4年生の時である。当時、永六輔氏と共にカンボジアのNGO活動に関わっていた父に連れられ、初めて東南アジアを訪れた。そこで目にした人々の素朴な暮らしや、伝統的な手仕事の美しさに私は強く魅了された。いつしか「海外の工芸品を扱う仕事をした」という想いが募り、卒業後は実家へと戻る道を選んだのである。

その後、私はアジアやアフリカなどへ毎年足を運び、店で展開する工芸品の収集や商品企画を手掛けるようになった。買い付けの拠点は主に都市部だが、時間を見つけては交通の不便な村々を訪ね、手仕事の現場取材することが私のライフワークとなった。こうして訪れた国々は、30カ国ほどにのぼる。

しかし2010年以降、再び大きな転機が訪れる。世界的なデジタル技術の発達により、各地で急激な物質的変化が起こり始めたのだ。旅の利便性は格段に向上したが、それと引き換えにあらゆる物価が上昇し、伝統的な手仕事は目に見えて減少し始めた。

その頃、私の新たな探求の場となっていたのが、地元・秋田県内でのフィールドワークである。グローバル化の波に乗り激変するアジア諸国に対し、現代の喧

騒から切り離されたかのような秋田の農村地帯では、土着の民俗文化が色濃く息づいていた。

中でも、村境や神社に守護神として祀られる、藁や木で作られた巨大な人形には強い衝撃を受けた。地域によって「シヨウキサマ」や「カシマサマ」などと呼ばれ、大きいものでは高さ4メートルを超す。その御姿は、私が巡ったアジアやアフリカの仮面や木彫といった民族造形にも劣らぬ、ユニークで力強い存在感を放っていた。民俗学者の神野善治氏が「人形道祖神」という名称で分類したこの民間信仰は、東日本各地で見られるが、特に秋田県は突出した分布数を誇っている。私自身も調査を重ねたところ、県内150カ所以上でその存在を確かめることができた。

2018年、私はイラストレーターの宮原葉月氏と共に「秋田人形道祖神プロジェクト」を結成し、調査の成果を書籍『村を守る不思議な神様』にまとめた。宮原氏による印象的なイラストによって、歴史や民俗に留まらず広くアートの関心のある層の間でも話題を呼び、発売直後から大きな反響をいただいで、わずか半年で重版が決定した。翌年に



は続編を刊行し、さらに2021年にはこれら2冊を再編した『村を守る不思議な神様・永久保存版』をKADOKAWAから上梓するに至った。こうした一連の活動を通じて、現在では全国の博物館や大学、ギャラリーなどから講演や展示の依頼をいただくようになっていく。

人形道祖神を祀る集落では、定期的に作り替えを伴う祭りが行われており、私たちはこうした節目にあわせて取材を重ねている。そこで直面するのが、深刻な人口減少である。過疎化の波は行事の継承に暗い影を落としているが、現在、私は秋田公立美術大学の博士課程に在籍しながら、この伝統を次代へ繋いでいくための持続可能なモデルを構築できないか、研究を続けている。

工芸ギャラリーの運営と郷土史研究の活動は「二足のわらじ」のように捉えられるかもしれないが、私にとって「文化を紹介する」という点において通底する仕事である。これまで海外の工芸品を秋田に紹介してきたように、次は秋田の「村を守る不思議な神様」の魅力を、広く世界へ発信していくことが新たな目標だ。

交差点

秋田の役に立ちたい

鯨岡 修 (昭和49年卒)

秋田産業サポータークラブは、秋田と首都圏をつなぎ、秋田県の産業全般に関する情報の収集や意見を

集約し、今後の産業施策の推進に役立てていくことを目指して集う任意団体として2006年に発足した。秋田県出身者に限らず、さまざまな立場で秋田にゆかりのある方、秋田に関心を持つ方々が参加し、登録会員数は200名を超えているが、実際にアクティブに継続的に活動しているメンバーは30名ほどである。

発足当初は、首都圏在住のメンバーが集う構成であったが、コロナ禍でオンライン・ミーティングの機会が増え、その結果秋田県をはじめ参加する方のエリアの拡大という思わぬ副産物も生まれた。

さて、正直に申し上げると、私は決して模範的な会員とは言えない存在であった。どちらかといえば「名簿には載っているが、活動にはあまり顔を出さない人」という立ち位置だった。言い訳をすると、スタート時、私は50歳の現役バリバリ、秋田県東京事務所

の終業時間を考慮して午後4時からのミーティングに参加するハードルは相当高かったのである。そんな私が、長く関わってきたこともあり第四代会長を拝命することに。同級生の皆さんがこれを読んだら、「なぜアイツが？」と首をかしげている方もいらっしゃるだろう。私自身も少なからず同じ気持ちではあるが、せつかくいただいたご縁なので、背伸びをしすぎない範囲で務めていきたいと考えている。

私は秋田市で生まれ育ち、秋田高校を卒業後、大学進学を機に秋田を離れ、そのまま現在に至っている。気がつけば離れて半世紀以上という長い年月が流れ、

秋田との直接的なつながりは、今では両親の眠るお墓を訪ねることくらいになってしまった。

情報発信、つなぎ、積み重ね

一方で、不思議なことに、離れているからこそ見えてくる秋田の姿もある。ふとしたきっかけで耳にする地元の話題や、ニュースで取り上げられる秋田の取り組みに触れるたびに、「ああ、やはり自分にとって秋田は特別な場所」と改めて感じさせられる。そう思った思いが、このクラブと関わりを続けてきた理由だったのかもしれない。

秋田の産業に関する話題で頻繁に取り上げられるのは、人口減少や高齢化、低賃金といった、いわば「マイナス」の側面。確かにそれらは現実の課題であり、向き合わなければならない重要なテーマである。しかし一方で、近年はこれまでとは異なる新しい動きも生まれている。例えば、地域資源を生かしたユニークな起業や、新しい発想で地域課題に取り組む若者たちの存在は頼もしいものがある。こうした取り組みは決して派手ではないが、確実に秋田に新しい風をもたらしているように感じられる。

私自身、会長という立場をお引き受けするにあたり、こうした前向きな動きにどのように関わることができるのかを改めて考えるようになった。この情報を発信すること、人と人をつなぐこと、そして小さな応援を積み重ねること——決して大きなことではないが、その積み重ねが、挑戦する人たちの支えになることを願っている。

クラブの活動の20年という年月は、決して短いもの

ではない。その間に社会環境は大きく変化し、地域を取り巻く状況も様変わりしている。一方で、秋田を思う気持ちや、何か役に立ちたいという志は、発足当初から変わることなく受け継がれてきた。むしろ今の時代だからこそ、そういう思いの価値

はより一層高まっているのではないか。

新しい挑戦を続ける限り

これから先も、秋田を取り巻く環境は決して平坦ではないかもしれない。それでも、地域の可能性を信じ、新しい挑戦を続ける人々がいる限り、未来は決して暗いものではないと感じている。私自身も、これを支える一端を担う存在でありたいと思っている。

お読みいただいた同窓生の皆さまの中にも、それぞれの立場で秋田に思いを寄せていらっしゃる方が多いことと思う。関わり方は人それぞれだが、「気にかけること」や「応援したいと思うこと」自体が、きっと大きな力になるはず。

クラブの活動にちよつとご興味をわいた方、何か集まる機会があったら参加してみようと思った方、難しいことはともかくまずは秋田をネタに秋田のお酒を一緒に一杯やりたい方、どうぞお気軽にご連絡いただきたい。ホームページは <https://akita-support.org/>。秋田県のホームページは <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/2404>

Profile



くじらおか・おさむ / 1955年秋田市生まれ 早稲田大学政治経済学部政治学科卒 1978年日本経済新聞社入社 日経BP社、日経メディカル開発勤務を経て、2019年よりゲンゼ株式会社取締役 (社外)

字幕翻訳者として、秋田から世界とつながる日々

品川 愛子 (平成17年卒)

秋高に通っていたあの頃、自分がまさか中国の京劇に魅せられ、博士課程にまで進むとは思っていなかった。芸術大学で音楽学を専攻し、中国の音楽大学への留学を経て、気づけば中国の芸術の奥深さにすっかり引き込まれていた。その後、十年前に秋田へ戻り、地元企業での会社員を経て、二年前に翻訳の仕事で独立した。現在は二人の未就学児の母として、日々仕事や育児に奔走する毎日を送っている。

仕事の中心は、インターネットの動画配信サービスで配信される中国ドラマの字幕翻訳や、映画の翻訳で、地元企業のビジネス翻訳のお手伝いもしている。中国ドラマはフィクションのエンターテインメント作品であるから、厳密な考証が求められるものばかりではない。それでも、中国ならではの価値観や文化が物語の題材になることも多く、それらを学び理解しながら、日本の視聴者が分かりやすいような字幕を作っている。劇中に流れる音楽には中国の楽器を使った楽曲も多く、特に古装劇と呼ばれる時代劇のジャンルでは、映像・言葉・音楽が一体となり、娯楽作品として中国文化の世界観を楽しむことができる。長年にわたって中国音楽と文化を学んだ経験を活かし、そのような作品の奥行きを肌で感じつつ携わることは、この仕事ならではの喜びだ。中国語は豊かな響きを楽しめる言語だと思っているが、耳で言葉の響きを楽しみながら、日本語の字幕で作品の世界をしっかりと味わっていただけるよう橋渡しをする。厳しい納期や品質に責任があり緊張感に満ちた仕事ではあるが、秋田にいながら中国の文化やエンターテインメントに関われること、それ自体がうれしい。

字幕翻訳は、国籍も住む場所も年齢もさまざまなメンバーがインターネットで連絡を取り合い、時に議論を交わしながら一つの作品を仕上げている。チームの仕事だ。映像作品を字幕で楽しむ場合と原語で楽しむ場合とでは、どうしても情報量に差が生じる。文字を詰め込みすぎれば視認性が悪くなり、かえって没入感が損なわれる。私たち翻訳者は、そのバランスを考慮しながら慎重に言葉を選び、限られた字数の中で過不足なく物語のエッセンスを届けようとしている。特に何十話にもわたるドラマでは、チーム全体で緻密に統一性を保ちながら作品を仕上げている必要がある。最近では校正の仕事が増えたが、複数名の翻訳者の個性を活かしながら、字幕全体の統一性を担保する工程を担っている。ドラマの翻訳というと華々しいように思われる方もいるかもしれない。しかし舞台裏はととても地道で泥臭い。少なくとも校正の場合は、徹底的に黒子の仕事だ。それでも、視聴者の方が作品の世界に没入し楽しんでくださっているとすれば、それ以上のやりがいはない。



しながわ・あいこ／東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院修士課程修了。中央音楽学院への交換留学を経て、中国音楽学院大学院博士課程（中国伝統音楽理論専攻）単位取得卒業。帰国後十年前に秋田へ戻り、地元企業勤務を経て二年前に翻訳者として独立。現在は大手動画配信サービスの中国ドラマ字幕翻訳・校正、映画翻訳など映像翻訳を中心に手がける。女性同窓会「若菜会」幹事。

仕事以外では、秋田に帰ってから思いがけない縁に恵まれた。女性同窓会である「若菜会」の存在を知り、幹事の末席に加えていただいた。先輩方が多くの役割を担ってくださっており私自身はまだ大したことはできていないのだが、秋田を離れて久しく同窓とのつながりも薄くなっていた中で、まったく別の学年の方々と「同じ母校で学んだ」という緩やかな縁でつながれること、古巣があるのだと感じられたことが、個人的にはとてもうれしかった。

高校生のときに思っていたよりも、世界は広く、正解のない問題が多く、予想外の出来事や人との出会いに満ちていた。色んな人やチャンスに導かれながら、気づけば今の自分がある。時代も確実に変化している。インターネットを通じて世界とつながることが当たり前になった今、地方にいることは制約ではなく、自分らしい働き方を設計できるチャンスになりうる。どんな場所においても、どんな過程を経ても、自分らしい生き方を諦めないこと。その積み重ねが、思いがけない未来につながると、自分自身の経験から感じている。

人生のさまざまな局面で、柔軟な働き方がどうしても必要になる時がある。育児、介護、体調の変化——人生の節目ごとに、働き方を見直さなければならない場面は誰にでも訪れる。そんな時に、会社員以外の選択肢があることを知っているだけで、見える景色は変わるのではないだろうか。私自身、字幕翻訳という好きで得意な仕事にたどり着いた背景には、育児という大切な人生のステージに自分らしい形で対応していくため、場所と時間を選ばない仕事をしたという思いがあった。仕事の選択肢は、思っているよりずっと広い。そのことを一人でも多くの人に知ってほしいという思いから、今年中に友人と、雇われない働き方をしている人々の仕事を持ち寄り、見本市のようなイベントを計画している。現在鋭意企画中ではあるが、今この秋田という場所で、次の一手を楽しみながら進んでいきたい。



未来のビジネスシーンへ
株式会社 **カネヒコ**

〒010-0966 秋田県秋田市高陽青柳町17-64
TEL 018-823-8317 FAX 018-864-6353

代表取締役
阿部 大助 (昭和61年卒)

www.kanehiko.co.jp



代表取締役社長
船木 保美 (昭和51年卒)

秋田市八橋本町3丁目7-10
TEL 018-824-1155
https://www.fm-akita.co.jp



秋高気分屋食堂

AFM IFFM 秋田

秋田高校内学生食堂
同窓生、保護者のご利用もお待ちしております
営業日はInstagram gakyusyoku.syuukou で!

遊びが秋田の未来を創る 二拠点生活で挑む、スポーツ鬼ごっこの可能性

佐々木 隆 (昭和50年卒)

第1章：外から見た秋田、中から触れる秋田

私は現在、東京郊外の自宅マンションで暮らしつつ、半年に一度は実家のある秋田に滞在するという「二拠点生活」を送っています。離れた場所からニュースやネットを通じて耳や目にする秋田は、少子高齢化や人口減少、あるいは経済の停滞といった、どこか寂しい数字や言葉です。県外で暮らす同窓生の皆様も、故郷の行く末を案じつつ、どこか遠い世界の出来事のように感じてしまう瞬間があるのではないのでしょうか。

しかし、実際に秋田の土を踏み、人々と対話を重ねてみると、そこには数字だけでは決して測ることのできない「人の熱量」が確かに眠っていることに気づかされます。この熱量を形にし、次世代へ繋ぐ確かな一助になりたい。その一心で、4年前に定年を控えた私が情熱を注いで取り組んでいるのが「スポーツ鬼ごっこ」の普及活動です。

第2章：志は高く、足元は地道に —— 200箇所の公園を目指して

「なぜ、今さら鬼ごっこのか?」と、最初は不思議そうに聞かれることもありました。

スポーツ鬼ごっこは、誰もが知る「遊び」を現代的なルールで競技化したものです。単に足が速いだけでなく、チーム全体で役割を分担し、守備を崩すための作戦を練り、一瞬の隙を突く。体だけでなく頭もフル回転させる知略のスポーツです。

何よりの魅力は、小学生から現役の社会人、さらにはシニア世代までが、同じフィールドで対等に笑い、競い合えることにあります。この「多世代交流」こそが、人と人の繋がりが希薄化しつつある今の秋田において、最も必要な処方箋になると確信しました。

私の目標は、秋田市内の公園200箇所でこの体験会を開催し、街中に「子どもたちの歓声」と「大人の笑い声」を取り戻すことです。しかし、理想と現実の間には大きな壁がありました。当初は秋田滞在中に自ら公園を巡り、地道に体験会を重ねましたが、なかなか参加者が定着せず、孤独な足踏み状態が続きました。

転機は二年前の夏でした。知人の紹介で、全天候型施設「光沼アリーナ」に出会い、毎月第一火曜日の夜に定期開催を始めたのです。季節や天候に左右されず、安心して集まれる「拠点」ができたことで、少しずつ、しかし確実に「クチコミ」という確かな絆が広がり始めました。

第3章：私がいなくても、火は消えなかった

二拠点生活を送る私にとって、最大の不安は「不在期間」の壁でした。私が東京に戻っている半年間、リーダー不在で活動の灯が消えてしまうのではないかと。住んでいる地域も生活時間帯もバラバラな参加者たちが、拠り所を失い、またバラバラになってしまうのではないかと。

しかし、その心配は全くの杞憂に終わりました。参加者の皆さんの「この場所を守りたい、繋がりを継続したい」という思いは、私の想像を遥かに超えて強固なものになっていたのです。

半年ぶりに秋田へ戻り、アリーナの扉を開けた時の光景を、私は一生忘れません。そこには以前と変わらぬ、いえ、不在前よりも熱気を帯びた試合風景が広がっていました。そして、私の顔を見るなり、小学生から大人までが「佐々木さん、お帰りなさい!」と満面の笑みで迎えてくれたのです。

私が不在の間も、彼ら自身の手でバトンは繋がっていました。スポーツ鬼ごっこが、単なる運動の場を超えて、地域の人々にとってなくてはならない「心の居場所」へと成長していた瞬間でした。

第4章：秋田を思う「心」を「アクション」へ

秋田の少子高齢化という大きな流れを、一人の力で止めることはできないかもしれません。しかし、そこに住む人たちの心が孤立していくのを防ぎ、新しい風を吹き込むことは、今この瞬間からでも可能です。

今、この原稿を読んでくださっている同窓生の皆様にお願ひがあります。秋田を離れて暮らしていても、故郷への「応援マインド」を形にする方法は一つではありません。

「帰省した際に、一度アリーナへ遊びに来てみる」

「活動のSNSをシェアして、秋田の知人に伝えてみる」

「自分の得意分野で、このコミュニティを支えるアイデアを出してみる」

どんなに小さな一歩でも構いません。皆様の持つ経験やネットワーク、そして故郷を思う気持ちがアクションに変わる時、それは秋田の未来を照らす確かな光になります。大の大人が本気で鬼ごっこに興じ、汗を流す姿の中に、停滞感を打ち破るヒントが隠されていると私は信じています。

第5章：結びに代えて —— 千秋の誇りを次世代へ

故郷を思う気持ちに、住んでいる場所や費やせる時間の長さは関係ありません。大切なのは「自分にできる一歩」を今、踏み出すことです。私はこれからも、東京と秋田を行き来しながら、この「遊び」の力を信じて活動を続けていきます。私たちの愛する秋田が、世代を超えた笑顔で溢れ、若者が「ここで育ってよかった」と思える場所であり続けるために。

いつの日か、秋田市内の200箇所の公園すべてに、あの歓声が響き渡る日を夢見て。皆様とフィールドで、あるいは秋田の空の下でお会いできる日を、心より楽しみにしています。

【活動への参加・お問い合わせ・応援はこちら】

スポーツ鬼ごっこ広め隊

代表：佐々木隆

メールアドレス：kenketsu200@gmail.com

※毎月第一火曜日 19:00～ 光沼アリーナにて定期開催中。見学・冷やかしく大歓迎です!



代表社員 税理士
磯崎 悠耶 (平成8年卒)
税理士法人 **M.U.G.E.N.**
(ムゲン)
〒010-0011
秋田市南通亀の町4番15号 ヤマキビル2F
TEL 018-836-1780 FAX 018-836-6771
<https://mugen-a.com>

吉成皮膚科クリニック
診療時間 月 火 水 木 金 土
午前8:30~12:00 ● ● ● ● ● 8:30
午後2:00~6:00 ● ● ● ● ● 13:00
※休診日 日曜日、祝祭日
院長 医学博士
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
吉成 力 (昭和61年卒)
秋田市将軍野桂町33-18
☎018-847-3712
URL <https://www.yoshinari-hifuka.com>

医療法人
内科 濱島医院
胃腸科
院長 濱島 由紀
医学博士 Yuki Hamashima, M.D.
(昭和61年卒)
〒010-0911 秋田市保戸野すわ町15-20
TEL (018) 823-5252
FAX (018) 823-6631
E-mail: hamayu-cli@if-n.ne.jp

A・B・C
株式会社
秋田物流センター
代表取締役社長
田牧 学 (昭和61年卒)
秋田市御所野湯本二丁目1番2号
TEL (018) 853-7211
<https://abc-buturyu.com/>
info@abc-buturyu.com

あの頃の

思い出

▶17◀

吹奏楽部

私の音楽活動の原点といえる最大の出来事。それは秋田高校吹奏楽部との出会いとさまざまな出来事です。これまで出会った先生や仲間との思い出と共に振り返りながら紹介します。

私が音楽と出会ったのは幼稚園でのオルガンと小学校で習ったピアノでした。練習が嫌で2年続けて同じ曲を弾くくらいサボってばかり。授業（必修クラブ）の器楽クラブで、スネアドラムを自己流でやっていました。中学校に入学して、さまざまな部活を見学する前に、いきなり器楽クラブの先輩に吹奏楽部に入部させられた私は、すぐ打楽器を担当。当時の秋田市立高清水中学校は編成が小さく、たくさんの打楽器を掛け持ちしました。ところが2年生になって急ぎょチューバにコンバート。楽器が向いていたのか、部の中心になって、3年で部長を拝命。中学卒業後は、ついに秋田高校に進学。あこがれの高校生活は驚きの連続でした。まず制服着用の義務のない自由。恐るべき応援練習。秀才ぞろいのクラスメイト。学級対抗。感動の合唱コンクール。もちろん部活動は

最強の仲間と最高の演奏を

佐藤 正人 昭和53年卒

「音楽と吹奏楽が命」の私は吹奏楽部へ。

そして、その後の人生を大きく変える運命の日が訪れます。仮入部から担当楽器が決まり次々と新入生が正式入部。当然私はチューバのつもりでしたが、なんと新入生に当時全国大会クラスの中学からチューバが3人集合。弱小、高清水中学校の私は、またしても担当楽器をコンバートすることに。吹奏楽部部長の谷口先輩から「正人、クラリネットに来てくれ！」の一言で初めてクラリネットを担当することになりました。これがきっかけで私の音楽人生が決定するとは思いませんでした。

尊敬する恩師との出会い

旋律を演奏できる楽器になって、私はうれしくて、全力で練習して、結構短期間で合奏に参加できるよう



になったと思います。そして、もう

一人人生を変えたのは、今でも尊敬する故伊藤吉雄先生との出会いです。先生の指揮はカッコいい、コントラバスもうまい、アレンジもする、音楽の授業はいろいろなジャンルを教えてくれる楽しく憧れの先生でした。当時全国大会に何度も出場していた秋田市立山王中学校の木内博先生、秋田南高校の高橋紘一先生と並んで秋田の吹奏楽を牽引していました。

伊藤先生は度々遠くから私が練習している姿を見ていらつしやいました。一言も声はかけられませんでした。一言も声はかけられませんでした。吹奏楽の指導に携わっている今、木管、金管、打楽器をそれぞれ基礎から経験したのは大きく役立っています。

私が初めてクラリネットで演奏した曲は、今はなき、八橋の野外音楽堂での中央地区納涼演奏会でのAリード編曲、グリーンズスリーブス(2nd C1a担当)だったと思います。前年、東北大会へ出場した秋高は旧秋田県会館でのトップコンサー

ト(写真)へ出場し、私は初のホールデビュー。そして吹奏楽部に入って最初の定期演奏会は、感動の連続でした。クラシックスステージは、マーチやワルツから名曲シエラザードまで、抜群のノリでポップスやビッグバンド、幕間の合唱「ドイツ学生歌」や「いざ立て戦人よ」など、日本中の合唱団が歌っている先輩方のプログラムや抜群の企画力と演奏。そして参加している自分にはほんとに幸せでした。この経験は今も生きています。

この年の秋高のコンクールは課題曲、小林徹作曲「吹奏楽のための練習曲」、そして自由曲はB、グリテンの名曲「パーセルの主題による変奏とフーガ」を伊藤吉雄先生が編曲して、東北大会に出場。特に秋田県大会の演奏は、割れんばかりの拍手と「ブラヴォー」の歓声が忘れられません。50年たった2025年の吹奏楽コンクールで私の指揮をする川越奏和奏友会吹奏楽団がこの曲を自由曲として取り上げ、全国大会で金賞を受賞できたことも感慨深いです。

普段話さない父親に感謝

このころからレコード、FM放送などでクラシックスを聴きまくり、吹奏楽の演奏も集めまくっていました。クラリネットの練習はもちろん、どんな音楽の道へ引き込まれていきます。この時「好きなクラシックスの曲を吹奏楽で演奏したいなあ」と思い始めて、独学で管弦楽法を勉強し、アレンジを始めました。部活と音楽に熱中するあまり、授業中に編曲をしていて怒られたり、成績はど



楽トッスコンサート

ん底に……。伊藤先生もヨーロッパ研修で不在の時期もあり、定期やコンクールではいつも先輩に盾をつけて迷惑かけていました。そして、2年の後半「音楽の教師になりたい」と両親に相談したところ、「音楽は東京に行かねばだめだ」と、普段あまり話をしない父親に言われ、学費を心配する間もなく、音楽大学を目指すことを決心。感謝しています。しかし担任に相談するも「高校から始めたクラリネットでは無理だ」と言われ、他の専攻も考えましたが、クラリネットで月一度のレッスンを受け、その結果、無事武蔵野音楽大学に合格。音楽を学ぶ道に進むことになりました。

いよいよ3年生になり最後の部活で、吹奏楽に打ち込みます。「全国大会目指して3年生まで部活を続けた7人最強の仲間と最高の演奏を」が目標でした。吹奏楽部長を拝命し、後輩にも恵まれ充実した活動ができました。特に定期演奏会は多彩で熱狂的な企画で盛り上がりしました。第一部でアルフォードのマーチ、シヨスタコービッチの祝典序曲、第二部ではドラムに天才的な小野君というブレイヤーがいて、グレシミラーにベニーグッドマン、映画音楽、第三部ビックバンドでは、私が徹夜でアレンジしたビートルズ「シーラヴズユー」ELP（エマーソン、レイク&パーマー）2001年宇宙への旅に1分のドラムソロで大活躍。アイドル並みの人気でした。また、盟友サックスの天才深井次郎君の演奏だけでなく、爆笑の名司会。第四部では、私がクラリネット



トソロでウエーバーのコンチエルトイノを吹き、レスピービのローマの松。最後にチャイコフスキーの序曲「1812年」。今思うと、何とも無謀な選曲でしたが、伊藤先生もよく許可してくれたな、と思います。幕間に、こちらも天才ギタリストがいて「アルハンブラ宮殿の思い出」、そして伝統の合唱「学生歌」。この定期の伝説はしばらく語られ続けました。

「ローマの祭」に狂喜乱舞

そして高校生最後のコンクール。伊藤吉雄先生と「社長室（俗称）」音楽準備室で3年生と選曲。ドラムの名手、小野君とポップスのスタイルにも精通していた伊藤先生とピッチタリの選曲、東海林修「デイスコキッド」に即決。この曲は人気で今でも演奏され続けています。自由曲は、社長室で吹奏楽コンクール全国大会のレコードをかけながら選曲。3年生一押しはレスピーギの交響詩「ローマの祭」。駒澤大学の名演を伊

藤先生が聴き終わった瞬間「これしかねあゝ」の一言。全員が狂喜乱舞！今思い出しても熱い思いがこみ上げます。楽譜も先生が直々に駒沢の上桝先生にお願いして用意してくれました。

そして私たち最後のコンクール秋田県大会。課題曲、自由曲のソロも次々に決まり劇的に盛り上がりつつ演奏を終えた私たちに、会場中から万雷の拍手！最高の演奏ができた喜びお互いをたたえ合いました。そして閉会式。私が表彰式に登壇し、結果発表。前年全国大会金賞の秋田南高校、花輪高校、横手高校が代表でした。「結果には泣かない」と決めていましたが、舞台袖に下がった時、南高の故高橋絃一先生に「演奏最高にいがったよ！」と肩を叩かれて、私は号泣したことも忘れられませんが、その後、「ローマの祭」は、勤務した川越市立野田中学校は全日本トップで金賞、川越奏和奏友会吹奏楽団も初出場で全国金賞、秋田吹奏楽団も創団依頼初の金賞、そして私の全曲アレンジもレンタルされ、この曲は全国で演奏が続いている思い出の曲です。

ドラマはまだまだ続きましたが、部活動引退の日、部長最後のあいさつに、後輩たちが涙を拭おうともせず、感謝の拍手をしてくれた姿も心に残っています。これらの経験があったからこそ、今も吹奏楽を続けているのだと思います。

吹奏楽コンクールは中学1年から今年度まで楽器と指揮で毎年参加していることになりました。ほんとに長い付き合いです。コンクールの指揮

も武蔵野音楽大学1年生からなので、デビューから40年がたちました。今とても充実した生活ができています。今と感ぜられるのは、これまでに進路を決定してきた節目に出会った素晴らしい先生方のお陰です。そして現在私の関わっている武蔵野音楽大学、尚美学園大学、立正大学の学生、埼玉県立松伏高校音楽科の生徒、渋谷区青少年吹奏楽団、秋田吹奏楽団、川越奏和奏友会吹奏楽団、福井のソノレウインドアンサンブルの団員。さまざまな世代、職業、地域の人が集まっていて、いつも様々な角度の話題を聞くことができます。その千差万別な考え方や音楽に対する姿勢、意見や熱意にはいつも教えられることが多いです。

楽器を続けることに魅力

学校を卒業しても吹奏楽を続けている仲間たちからその理由を聞いてみると、どうしても続けたくてすぐ一般バンドに入団したという人もいきましたが、途中で楽器を吹く機会がなくなったり、あるいは全く吹けなかつたりする時期を経験し、「やっぱり自分は音楽が好きだ」「吹奏楽をやっていると楽しい」「楽器が好きだ」という自分に気がついて、続けることを決心している人も多いようです。それだけ楽器を続けることや吹奏楽の活動に魅力があるということとです。そういう私も音楽から離れることなく今日にいたっています。読んでくださった皆さんと、これからも秋田高校を卒業した仲間として末永くお付き合いをお願いします。

昭和53年卒同期会 (in 東京)

11月15日(土)、グレースバリ銀座にて昭和53年卒同期会in東京は50名の参加で開催されました。

東京での開催は、コロナ禍もあり8年ぶり。今回で4回目を迎え、秋田在住の同期生も4名駆けつけてくれ大盛会となりました。

幹事メンバー達は、収容人数に幅を持たせられる会場選に頭を悩ませていましたが、嬉しい悲鳴となりました。秋田の運営メンバーによるWebを利用したネットの集客システムが大活躍でした。

47年ぶりに、同期会初参加という兵もおり、昨日の記憶に自信がなくなる年齢でも、当時の記憶は頗る鮮明であり、高校時代が、今朝のこのように思い出され、把酒談笑。

頭のテカリも、目じりの皺も、卒業以来の勲章であると改めて友の大事さ、感じ入りました。

話しは尽きず二次会にも39人も参加、その後も銀座の夜へと。(菅谷 司 記)



昭和36年卒同期会

36会例会が例年通り9月6日、竿灯通りの料亭志田屋で開催。オーナーが志田豊忠君という事で会発足後当料亭を会場としてきた。その志田君が前年10月逝去された事で彼を含め物故者への黙禱で会を始めた。

先般、魁紙「シリーズ時代を語る」欄に元明徳館高校長で県歴史研究第一人者、半田和彦君の研究者として歩みが36回に渡って連載された。この機会に半田君に講話をお願いした。歴史教師としての想いやエピソード、県近代史における新たな発掘や多くの市町村史の編集に携わった事等紙面に表されなかった興味深い話題をユーモラスに語ってくれた。

酒宴では、お互い齢八十を過ぎた老境に有る身、心境をしみじみと、あるいは意気軒昂に語り合っている姿があった。

最後に校歌を高らかに歌い、次回の再会を期して散会した。(半田 俊毅 記)



大館支部

11月18日、令和7年度大館支部総会は、「北秋くらぶ」にて総勢13名により開催されました。折からの悪天候にもかかわらず、本部から佐野副会長、庫山校長先生が駆けつけて下さいました。佐野副会長は大館支部総会に初参加、庫山先生はご就任後初のことでしたが、支部会員の中に知人そして秋田高校在職中の教え子もおり、最初から打ち解けた雰囲気での参加となりました。

佐藤茂範支部長(昭和41年卒)の挨拶、本部ご来賓からのご挨拶をいただき、伊藤碩彦支部顧問(昭和35年卒)の乾杯の発声で懇親会が始まりました。全員の近況報告も含め、熊の出没等の身近な話からAIの今後の考察などの高度な話題まで、皆さんの経験を交えたユーモアに溢れた会話に花が咲き、あっという間に二時間半が過ぎました。寺岡洋一副支部長(昭和43年卒)の中締めで来年の再会を期し、本年度総会の閉会となりました。

(幹事 鬼川 光洋=昭和53年卒 記)



秋田市役所羽城会

1月9日、秋田キャッスルホテルで151人が出席し、総会を開催しました。来賓として庫山徹校長、銭谷眞美同窓会会長と中村順子副会長、佐藤悦紹同窓会事務局長、沼谷純市長をお迎えしたほか、顧問の柿崎武彦副市長(昭和52年卒)、猿田和三副市長(昭和57年卒)、佐藤孝哉教育長(昭和53年卒)、特別会員の市議会議員、監査委員の皆様など多数の方にご参加いただきました。

総会では決算、予算案が承認されたほか、新会長の越後谷優氏(昭和60年卒)をはじめ各役員が選出されました。総会に続き懇親会が行われ、沼谷市長からご挨拶、庫山校長から在校生の進学や部活動等のご報告、銭谷会長から乾杯のご発声をいただいたほか、マグロ解体ショーなどが行われ、終始にぎやかな雰囲気で行われました。

過ぎる時間を惜しみつつも、最後は全員で校歌を5番まで斉唱し、藤田信市議会議員(平成3年卒)のご挨拶で中締めとなり、会は盛況のうちにお開きとなりました。

(村上 央=平成2年卒 記)



平成13年卒同期会

1月3日(土) ホテルメトロポリタン秋田にて卒業25周年を記念して平成13年同期会を開催しました。コロナ禍により20周年会を延期しての15年振りの開催でした。恩師3名(佐藤健公先生、船木文子先生、松山茂樹先生)をお迎えし、計74名に出席頂けました。歓談をメインとしつつもクラス対抗の余興を挟んだりババヘラコーナーの盛況等もあり、話し足りないと感じられるほどの楽しいひとときでした。

約9か月前から秋田在住20名弱が集い宴会を兼ねて企画してきましたので、過程もまた楽しいものでした。LINEをベースとしたことで、告知や写真共有が手軽で、年次理事の立候補等の情報共有の場にもなりました。幹事負担が少なく、今回くらい気軽に同期会が開催できれば、頻度によって子育て世帯や遠方の方が出席できるのではないかと思います。何より、恩師・旧友の顔がそこにあるだけで懐かしさに心が温かくなりました。また会いましょう。(照井 丈大 記)



秋田県庁支部

3月9日、アキタパークホテルで令和7年度県庁支部総会・送別会が開催された。佐野元彦同窓会副会長、佐藤悦紹同窓会事務局長、庫山徹校長をご来賓に迎え、安田教育長(昭和54卒)、県議会の杉本俊比古議員(同45卒)、鈴木真実議員(同53卒)、北林丈正議員(同54卒)、武内伸文議員(平成2卒)、川邊隼之介議員(同13卒)の顧問6名を含む総勢61名が参加し、総会では新支部長に伊藤政仁氏(昭和60卒)、副支部長に熊谷仁志氏(同)、高島知行氏(同)が選任された。

総会に続き送別会が行われ、退会者33名中、7名にご出席いただいた。

北林顧問の挨拶・乾杯の発声でスタートし、佐野同窓会副会長、庫山校長、安田顧問、退会者のスピーチなどが行われ、最後は、大堤悠生氏(平成30卒)のリードによる校歌斉唱、退会者へのエールを行い、鈴木顧問による一丁締めによりお開きとなった。

年次の垣根を越えて親睦を深め、同窓生ならではのつながりを分かち合う活気に満ちた集いとなった。

(浅利 真美子=平成29卒 記)



新会長に林康夫氏が就任 汀友会(同窓会土崎支部)

汀友会(秋田高校同窓会土崎支部)の令和7年度定時総会が、令和7年11月7日、秋田市土崎の「和食いしやま」で開催されました。

総会では、澤田石晶会長のご逝去(令和7年8月)にともない、新会長に林康夫氏(昭和47年卒)が選出されました。林会長は、前任の故・沢田石晶会長に衷心からの哀悼の意を表しつつ、功労への謝意を述べ、伝統を継承し同会の発展へ尽くす決意を語りました。

来賓として、秋田高校同窓会副会長の中村順子氏(昭和50年卒)、秋田高校教頭の伊藤匡先生(平成元年卒)が出席。文武両道で活躍する生徒たちの活躍を紹介しながら、「秋高精神」を受け継ぎ、時代の変化に応じ貢献する人材の育成を期し前進していきたい、とあいさつ。

総会の冒頭では、秋田市大森山動物園の名誉園長の小松守氏(昭和46年卒)が、「秋田の動物園の歴史」と題し講話。大森山動物園50数年の中で、義足を付けて生き抜いた「キリンたいよう」が、大切なものを残してくれた等、多くのエピソードを語りました。

(事務長 高山 良一=昭和53卒 記)



横手支部

令和8年2月17日、横手市松輿会館において、庫山徹校長、佐野元彦同窓会副会長のご臨席を賜り、横手支部総会を開催した。地元会員に加え、金融機関や地元企業に勤務する同窓生にも広く参加を呼びかけ、17名の出席を得た。高橋昭博支部長の挨拶の後、庫山校長より生徒の活躍や在籍数の推移など母校の現況についてご講話を頂いた。議事では役員人事(支部長・副支部長・幹事の計3名交代)を承認し、会計報告を行い総会を終了。懇親会では藤原辰夫副支部長の挨拶に続き、佐野副会長から同窓会の現状についてお話を頂き、キャリア教育の一環として当支部の近江幹事が母校で講演予定である旨の紹介もあった。伏見悦子幹事の乾杯で懇談に入り、21時に校友会歌を斉唱、小浜丈夫幹事の中締めで散会した。

(佐々木 一平=平成7年卒 記)



令和8年度通常総会・講演会

- 日 時 令和8年6月21日(日)
- 場 所 秋田キャッスルホテル 4階 放光の間
秋田市中通1丁目3-5 電話 018-834-1141
- 総 会 午後2時～
議題 令和7年度 事業・決算報告
令和8年度 事業計画・予算案
役員改選 ほか
- 記念講演 午後3時30分～
講師 佐藤 邦明氏(平成2年卒)
文部科学省 高等教育局 参事官(国際担当)
演題 多文化共生社会と日本人・秋田人
～教育の視点から考える～

- 懇 親 会 午後4時45分～
※会費 8,000円(懇親会ご出席の方)
平成8年以降卒業の方は5,000円
同封の払込用紙かホームページからのオンライン入金で事前にお振り込みください。

- 申し込み
ご出席の方は、同封のハガキ(切手貼付)かFAX、Eメールにより6月11日まで必着でお申し込みください。⇒
同窓会ホームページの「総会出席届け」もご利用ください。



[同窓会事務局] FAX 018-832-9588
Eメール aki-doso@cna.ne.jp

講師プロフィール



1971年生、秋田市出身
東京都在住
ミネソタ州立大学秋田校一期生
→ マンケート州立大学卒
東京大学教育学研究科博士前期課程修了

世界情勢が混沌とする中で、AIやデジタルトランスフォーメーションが進み、私たちの生活スタイルや思考方法が大きく変化しています。人口減少対応や増える外国人との共生社会の必要性などを踏まえ、日本・秋田から価値を創り発信し、それを支える文化・環境をどのように作っていくのか。最大の資源である「人」の教育の視点から、秋田の未来と合わせて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

山岳部創部100周年記念 関連事業のお知らせ

1. 記念式典、シンポジウム、祝賀会
○日 時 令和8年11月7日(土)
午後4時
○会 場 アキタパークホテル
2. 記念登山(太平山)
○日 付 令和8年8月29日(土)～
30日(日)
※野田口から入山、下山後交流会、
太平山リゾート公園キャンプ場
トレーラーハウス宿泊
3. 賛助金の御協力をお願い

【問合せ先】

嵯峨 透(昭和53年卒)
※詳細は「同窓会」ホームページでご確認ください。



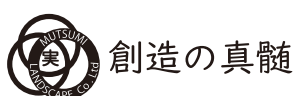
若菜会総会・講演会のお知らせ

秋田高校女子卒業生の会「若菜会」の通常総会と講演会を以下の通り行います。

- 日 時 令和8年7月20日(月・祝)
- 場 所 秋田拠点センターアルヴェ 多目的ホール
- 講演会 10:30～ (講演は男女問わず参加は可能です)
講師 高橋今日子さん(平11卒)「東京大学客員共同研究員」
演題 「心豊かな人生へのヒント
～これまでのウェルビーイング研究の知見から」
- 総 会 11:45～
- 懇親会 12:30～
- 会 費 2,500円(弁当、茶菓、資料代)
*講演会のみ参加1,000円(茶菓、資料代)

《申し込み》QRコード、メールまたは電話にて
6月30日までに申し込み下さい

《若菜会事務局》
Eメール akita.wakanakai@gmail.com
電 話 080-3149-9725(加藤)



風景を醸す
MUTSUMI WINERY

Human Ecology Design 株式会社 むつみ造園土木株式会社

専務取締役 佐々木竜太(平成8年卒)
TEL 018-863-2011

司法書士 田口司法事務所

所長・司法書士
田口 昭一

副所長・司法書士
佐々木 大輔(平成8年卒)

司法書士
今 昭功

〒010-0951 秋田市山王六丁目8番46号
TEL018-864-4431 FAX018-864-5507
https://www.taguchi-shihou.com

今村書店音楽教室 学習塾ニッケンアカデミー 五城目教室

今村三子雄(昭和41年卒)

今村多恵子(昭和42年卒)

今村和佳奈(平成8年卒)

南秋田郡五城目町字上町67
TEL 018-852-2303

https://web.lesson-time.com/imamurapiano60

三船新次先生を偲んで

秋田県高校陸上競技界の発展に大きく寄与された、三船新次先生（昭和31年卒）が、1月29日、ご自宅で永眠されました。享年88歳でした。



先生は長年にわたり指導者として辣腕を振るい、特に秋田高校や秋田中央高校の陸上部において、多くの選手を全国舞台へと導かれました。その指導は技術面にとどまらず、教え子たちからは「どこかで見守られているような」深い信頼を寄せられる存在であり、引退後も秋田県陸上競技界の重鎮として生涯現役の精神で競技普及に尽力されました。葬儀は2月6日に秋田市内で執り行われ、多くの教え子や関係者が参列し、秋田のスポーツ振興に捧げたその功績を称え、別れを惜しましました。

反響は3月1日の秋田さきがけ新聞追想メモリアル欄に「走ることに情熱を注ぐ」と題され掲載されました。また4月3日付同紙えんぴつ四季欄には昭和52年卒山崎義裕さんが「わが担任」として寄稿されました。



※写真は昭和40年の甲子園大会準々決勝で鈴木健次郎校長と応援する三船先生（写真右下サングラスの方）羽城館展示室所蔵

（広報委員 水澤彰人（昭和53年卒））

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきます

令和6年	令和7年	令和8年
8月 柴田 進 (昭29)	1月 西野 誠二 (昭41)	1月 佐藤 敬助 (昭20④)
10月 江島 亮 (平1)	2月 辻 存之 (昭28)	2月 門脇 久勝 (昭31定)
11月 軽部 文夫 (昭41)	3月 佐々木健治 (昭29)	2月 三浦 五郎 (昭31)
12月 和賀 勝彦 (昭32)	4月 西島 寛 (昭27)	2月 岩井 邦宏 (昭35)
	3月 鈴木 礎 (昭33)	2月 石橋 秀史 (昭35)
	4月 西村 善信 (昭40)	2月 泉 秀一 (昭33)
	7月 高島信之介 (昭36)	2月 夏井 興一 (昭33)
	8月 坂田由紀子 (平5)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	7月 横田 英夫 (昭12)	2月 泉 秀一 (昭33)
	8月 横田 治佳 (昭35)	2月 石橋 秀史 (昭35)
	9月 細部 佐悦 (昭29)	2月 泉 秀一 (昭33)
	9月 石田 恭美 (昭39)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	9月 佐々木孝雄 (昭37)	2月 泉 秀一 (昭33)
	9月 佐藤公一郎 (昭29)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	9月 越前合俊文字 (昭40)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 加藤 正紀 (昭34)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 皆川 昭宏 (昭25)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 小泉純一郎 (昭25)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 佐藤 元一 (昭33)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 近藤 智 (昭51)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 伊藤 碩士 (昭36)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 武藤喜八郎 (昭29)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 寺田 俊夫 (昭37)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 中村 行史 (昭33)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 清水与十郎 (昭33)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 高野 和義 (昭31)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 吉田 博行 (昭38)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 那波 重得 (昭39)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 山石 和彦 (昭51)	2月 泉 秀一 (昭33)
	10月 本間 博行 (昭63)	2月 石橋 邦宏 (昭35)
	10月 荻原 輝男 (昭33)	2月 泉 秀一 (昭33)

注(昭20④)は旧制中学を4年で卒業、(昭20⑤)は5年で卒業したことを表す

◆会員情報の変更をお知らせください◆

会員情報の変更は、同窓会だよりに同封の「会員情報連絡票」のほか、同窓会HPのフォーム、メール、FAXでもお知らせいただけます。最新の住所の登録をお願いします。

◆同窓会員名簿の廃棄◆

古い同窓会員名簿を廃棄する場合、個人情報悪用されないようご注意ください。発払い宅配便で同窓会事務局宛に送ってくださいれば適切に処分します。

お願い



知の探究

総合的な探究の時間に行われている「知の探究」の令和7年度発表会が行われ、各学年の最優秀作品が決まった。

「投球の真実」を求めて

2年

わたなべ
渡邊 快晴

私は日頃から「投球の真実」を求めている。どのような投球が最も効果的なのだろうか？これが探究活動だけでなく私自身の投球練習におけるテーマでもある。

投手には制球力、変化球、投げ方など、たくさんの要素がある。ただ、変化球や投げ方はインターネットで調べれば誰でも真似でき、制球力も意外に意識一つで良くなることもある。一方、球速はトレーニングを積んでも簡単には上がらない。それでも投手たちは揃って球速を上げようとし、実際に各地の平均球速は上昇している。

私はこの状況を球速が他の要素と比べてより大きな価値を持つからだと考え、投球コースを細分化したアタックゾーンと失点抑止能力を表す得点価値と合わせて「MLB投手における球速とアタックゾーン別得点価値の相関」というテーマで研究した。100人以上の選手のデータを対象にしたため分析は大変だったが、ストライクゾーンとその周辺においては球速を上げることが失点抑止につながるということがわかった。

今回の研究では球速をターゲットにしたが、研究を進めていくうちに様々な疑問が湧いてきて、審査員の方々からもっと深められるという内容のコメントを頂いたので、今後も球速に限らず、「投球の真実」を求めて探求を続けていきたい。



シナイモツゴを通して学んだこと

3年

いわさき
岩崎 悠真

「秋田市のシナイモツゴ生息状況と域内保全に向けて」をテーマに掲げ、探究活動を行った。シナイモツゴは環境省の絶滅危惧ⅠA類に指定されている在来種で、私はこの魚を本来の自然環境の中で守り抜く「域内保全」の実現を目指している。

秋田市内を街から山まで、池を探し回った。思い出は沢山あるが、特に産卵場所の調査には苦労した。管理者への許可取りに始まり、ウェーダーを履いて泥に足を取られながら池に入り、調査を繰り返す日々。秋田県立大学、杉山先生のご協力のもと大森山動物園の池にも入らせてもらった。なかなか卵が見つからず泣きたくなるときもあったが、初めてシナイモツゴの卵を確認できた時の感動は、今でも忘れられない。シナイモツゴを飼育して特性を調べたり、「体幅」に着目し、近縁種であるモツゴと現場で簡易に判別できるシートも考案した。

こうした成果を、遠藤先生の勧めで「マリンチャレンジプログラム」に応募したところ採択された。全国の研究コーチとの面談で得た新たな視点は大きな刺激となり、北海道・東北大会で優秀賞を受賞、全国大会へ駒を進めることができた。しかし、全国の壁は厚く、質問にもうまく答えることができず、自分の力不足を痛感した。その悔しさを糧に、知の探究、全校発表では内容を徹底的に修正して挑み、納得のいく発表をすることができた。

この二年間、泥にまみれた調査や杉山先生を始めとするお世話になった方々との交流で得た知見は私の一生の財産だ。研究は一人では成し得ず、様々な意見ももらいながら協力して作り上げるものだとわかった。「知の探究」で培った探求心と感謝を忘れず、今後の人生に活かしていきたい。



100年の歴史とともに

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、6月に行われる全県総体に向け、限られた練習時間の中でも高い集中力を保ちながら、個々の能力向上に加えてチーム力の強化を目指し、日々の練習に励んでいます。

バスケットボールはコートの中の5人に加えて、ベンチメンバー、コーチ陣などチーム一丸となって戦うことが勝利するために必要不可欠です。そのため普段の練習から声を掛け合って雰囲気よく練習することを意識しています。また、バスケットボールはチームスポーツのため、一人だけがずば抜けて上手くても勝つことはできません。周りをよく見て自分にできることは何かを考えてお互いを助け合いながらプレーすることが大切です。そのため、

味方の動きに合わせるプレーや
ディフェンスのローテーションな
ども丁寧に練習しています。

昨年は創部100周年という記念すべき年でした。その中でも全県総体でベスト8という結果を残してくださった先輩方は本当に素晴らしいかったです。私たちの代でも先輩方の残した結果を越えられるように残り少ない時間を大切にして努力していきたいです。そして、100年という長い歴史を刻んできたチームのため、これまでの先輩方の思いや築き上げてきた伝統を大切にしながら最後まで諦めずにプレーしたいと思います。

〔3年 主将 藤丸 惣右〕



令和7年度山形東高校との定期戦にて

揃う美しさを追求して

ダンス同好会

ダンス同好会は、秋高祭をはじめとする学校行事でのパフォーマンスやインスタへのSNS投稿、イベントへの出演など様々な活動を行っています。特に、秋高祭でのステージは一年間の集大成であり、熱い思いを込めて作り上げます。

私たちは、ダンスの細かいところまでみんなで揃え、クオリティを高めています。細かいところを揃えるというのは、顔の向き、腕の角度、手の形などを合わせたり、踊るタイミングを合わせたりすることです。振り付けを覚えることは自分で行い、みんなで練習をするときは難しいところを踊れる人に教えてもらったり振り付けを合わせたりしています。見ている方の印象に残り、感動してもらえるようなパフォーマンスをお届けできるように、このような練習を日々行っています。

昨年度、第50回全国高等学校総合文化祭ブレ大会のパレードに出演しました。同好会でありながらもこのような大会に出演させていただく機会をいただけたことを大変光栄に思っています。また、この功績は私たちだけで掴み取ったものではなく、ここまでダンス同好会を繋ぎ、活動の幅を広げてくださった先輩方のおかげであると思います。

私たちの活動は協力してくださる方、見てくださる方がいるからこそ成り立っています。そのことを忘れずに最高のパフォーマンスができるよう、みんなで意見を出し合い、協力して頑張っていきたいです。

〔3年 会長 佐藤 もなみ〕



令和8年4月校内にて

令和8年度 年会費納入のお願い

同窓会の財源は皆さんの納める年会費です。「同窓会だより」の発行や母校生徒への支援、年次同期会開催への補助や支部活動への支援にも使われる年2000円の会費納入をお願い申し上げます。

◆会費の口座自動振替の募集◆

来年度から会費の口座自動振替をご希望の方は、今年度の会費納入時に払込用紙にある金融機関名を選び○をつけ、必ず郵便局・ゆうちょ銀行からお振り込みください。口座振替の新規募集は年1回です。

◆ホームページからのオンライン入金◆

同窓会ホームページからオンラインによるクレジットカード、銀行振込でのお支払いもできるようになりました。

オンライン入金の利用方法▶▶
(同窓会ホームページ)



◆スマホ決済アプリも利用可能◆

払込取扱票のバーコードをスマホで読み取ることで年会費の納入が可能です。ゆうちょPay、楽天銀行コンビニ支払いサービス、ファミペイ、PayBなどのアプリが利用できます。

スマホ決済の利用方法▶▶
(PayPayは利用できません)



同期会や支部総会
などの記念品として
ご活用ください

同窓会オリジナルグッズ

グッズの売り上げは全て生徒の教育振興に充てています

同窓会館「羽城館」で
購入できます
FAX・Eメールでも受付中



赤：敬天愛人理想を高く
青：おれを修めて世のためにつくす
黒：汝、何のためにそこにありや

◆フリクションボールペン（3本セット）
校章・文字入り ケース入り
800円



◆マフラータオル 2,000円（生徒は1,500円）



◆クリアファイル 各100円

事務局通信

学食が「秋高気分屋食堂」として復活し1年。日替わりメニューもあり生徒も喜んで利用している。学校や同窓会の会合用の弁当も作っていた。同窓生の皆さんも大いに利用して学食の運営を支援してほしい。

昨年度は、昭和33年卒、昭和42年卒、昭和63年卒の各同期会から寄付金を頂戴した。生徒への支援など同窓会活動に有効活用している。感謝(悦)

編集後記

うぐいす坂にも柔らかな光が降り注ぐ季節となりました。今号も変わらぬ情熱で各界を牽引する同窓生の皆様の活躍や、春の息吹とともに、新たな一歩を踏み出した現役生の姿を掲載させていただきました。広報委員会は3年が任期で今回をもちまして委員は総入れ替えとなります。フレッシュな話題や情報を提供すべくあつという間の期間でいささか名残惜しいのですが、新委員の新たな視点にも期待しているところです。同窓生の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。
(水澤)

米菓匠 鼎庵本店
秋田県潟上市天王字上江川 47-1203
TEL.018-853-6766
代表取締役
米田 賢吾 (平成8年卒)

モノづくりの夢を支える
Sanwa metals
サンワメタルス株式会社
〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字深谷地16-1
TEL 0184-36-2311 FAX 0184-37-2277
代表取締役 平澤 誠 (平成8年卒)

司法書士
中村美輝
Yoshiteru Nakamura
(平成8年卒)
司法書士 中村美輝 事務所
〒010-0951
秋田市山王三丁目1-7 東カンビル5F
Tel.018-853-1953 Fax.018-863-5520
E-mail:info@nakamura.akita.jp
www.nakamura.akita.jp

—ゆたかさ創造 やさしさ創造—
株式会社 清水組
代表取締役社長
清水 隆成 (平成8年卒)
専務取締役
清水 明彦 (昭和51年卒)
〒010-0341 男鹿市船越字船越285
TEL 0185-35-2011
WEB <https://www.oga-shimizugumi.co.jp>